

# 取り上げられなかった神族

ページ数の都合により、取り上げられなかった神族に関してざっと触れておこう。

世界にはさまざまな民族があり、その分神族があるとも考えられる。小さな民族神の神族を、亜神族と呼ぶこともある。亜神族は大きな神族の下に入るような形を取るものが多い。

## 仙族

漢民族だけでなく、少数民族も含めた中国の神々。中国民族宗教である道教の神々と言っているだろう。

最高神は元始天尊であるとされるが、高位すぎて衆生を救うことはないので、人々は玉皇上帝を最高神として祀る。

しかし、老子の神格化太上老君は道德天孫として元始天尊に並ぶ存在であるし、天帝としての北極星信仰では、玄天上帝が最高神である。さらに雷帝もまた玉皇上帝より上位と考えることもでき、それぞれどちらが上とつかぬ地位を持っている。また崑崙上の皇帝も天界の上位者であり、そこから実際の皇帝へと系譜が繋がってゆく。

天界には非常に多くの帝と呼ばれる神々がいるし、道教諸派によってもその位置付けが異なる。

さらに中華思想は中国を世界の中心として、何でも外辺の物を取り入れてしまうので、他神族に含まれる神々も、名を変えて仙族と考られている。釈迦もムニマもキリストもマリアもみな取り込まれてしまっている。よってその中心にある最高神の下に彼らも編入されているわけだ。

とにかくその天界はマナス界にあるとしよう。

道教では天界の下に仙界がある。そこでは修行した仙人である真人や、生まれながらにして仙人の神人が不老長寿の世界を楽しんでいる。

その下に神々の神界がある。これら神々は中国に無数にある廟に祀られている。

前にも述べたように、わがわがは仙界をエーテル界とし、神界をアストラル界と呼ぶ。人間は生きたまま仙界に入り、仙人となった者はそこで不老長寿を得るわけだ。もっとも、道教の伝えるところとは違ひ、肉体は捨ててもらわないとならない。しかしエーテル体でも充分美酒は味わえ、詩を詠み、歌を舞い、人生を楽しむことができる。それにエーテル界からは人間界や神界にも出入りもできるというわけだ。

天界に行ける仙人は限られており、彼らは同世界に存在を持っているのだらう。

有名な神々としては他に、悪霊退治のオーソリティーとして孫悟空こと齊天大聖や関羽の神格化関帝や日本でもおなじみの鐘道（しょうぎ）がいる。また死後の生を支配するとして、北斗星君も信仰が厚い。

中国本土では共産党の文化大革命によって、宗教はひどく破壊され、仙族の神々も痛手を受けている。台湾に逃れた神々も多いだろう。

## 仏族

仏族も広大な世界を持つ。

仏教で言う天界は下位アストラル界を示し、その上の色界が上位アストラル界となる。その上に仏たちのマナス界がある。

すなわち天国はアストラル界であり、阿彌陀仏の極樂浄土や、帝釈天ことインドラの天国も、巨大な仏教宇宙の一部である。

閻魔大王が統べる地獄世界や、戦いに明け暮れる阿修羅界もアストラル界であると考えられる。阿修羅界は、北極のオーシンの世界ワルハラに存在的には非常に近いものがあるようだ。

大日如来を中心とする密教の神々のパネオンは、マナス界であると考えられる。密教ですべての仏は、大日如来の仏性の一部の現れであると考えられる。つまりヤハウエや元始天尊と同じ神格であると考えられる訳だ。

他に代表的な神々には、医神藥師如来、極樂浄土を開いた阿彌陀如来、もちろんブツダである釈迦如来もいる。

菩薩信仰も盛んであり、観音さまで親しまれる観世音菩薩は人々を慈悲心によって救い、死後を浄土（フラダク）という浄土に導く。

仏教ではバラモン~ヒンディー教の神々が多く取り込まれており、ディーヴァの神界と共通の神々が登場する。たとえば、帝釈天はインドラ、吉祥天はシューリー（ラクシュミ）は弁天はサラスヴァティーは、大黒天はマハーカーラーで、シヴァ神の一相とされる。仏敵を滅ぼす不動明王はアチャラナータといわれ、これもシヴァ神の別名でとされる。

仏界はさまざまな神々の対立を収め、一個の統一世界を築こうとした試みである。

## クル神族

非常に古い新神と旧神と一緒に調和した姿で、一万五千年前の大破壊以前の神々である。モヘンジョダロやハラッパーの遺跡を作ったクル族に信仰されていた。彼らの世界は禁錮な平等世界で、貧富の差が極めて少なかったと言う。

ヤクシャたちがこの神族に含まれる。代表的な神は、ガネーシャ、クベラ（毘沙門天）、ダーキニー（荼吉尼天）、ハリティー（鬼子母神）などの多くのヤクシャ（夜叉）、そしてカーリー、シヴァ、クリシュナなどのインド主神、もちろんかつての主神マハーカーラー、さらにキンナラやガンダルヴァなど半神半獣の神々を含む。

ラクサーシャ（羅刹）は、旧神に含まれる。

クル族はインドでの戦いに敗れて世界に拡散し、中国南部に逃れた。中国のカラとは、クル族のことである。朝鮮半島の加羅族も、クル族の末裔である。日本に至って彼らは豊国文明を築いた。

クル族の名を留める地名では、呉、唐津、カラコルム、カルタゴなどである。